

VI 標準化会議の事業報告

1. 概要

標準化会議は、会員ニーズに基づく積極的な規格原案作成活動を進めた。国内標準化活動では、JIS 1規格の改正作業を行い、発行された。JSMA規格も制定・改正作業を進め2規格が発行できた。国際標準化活動では9月に第14回ISO/TC227ばね国際会議をドイツのベルリンにて開催した。Pメンバ11か国中、9か国29名が参加した。日本から提案した「皿ばね第2部：技術仕様」は9月に発行された。ドイツ提案の圧縮コイルばね試験法は2回目のCDを行う事が決まり、CD投票は3月または4月に開始され、次回国際会議でDIS段階に進むかを決定する予定である。

2. 標準化会議の開催

会議	名称、日時	主な議案
第1回 標準化会議	平成30年8月31日 機械振興会館	1. 国内各規格開発(JIS、JASO及びJSMA)活動内容審議 2. ISO/TC227ばね活動報告及び審議
第2回 標準化会議	平成30年11月14日 機械振興会館	1. 国内各規格開発(JIS、JASO及びJSMA)活動内容審議 2. ISO/TC227ばね活動報告及び審議
第3回 標準化会議	平成31年2月6日 機械振興会館	1. 国内各規格開発(JIS、JASO及びJSMA)活動内容審議 2. ISO/TC227ばね活動報告及び審議 3. 今年度活動の総括と来年度活動計画審議

3. 活動の詳細

(1) 国内規格関係

① JIS 規格関係

1規格の改正原案作成を進めた。JIS B 1251「ばね座金」は7月20日に改正発行された。また、4部編成からなるJIS B 2710の規格群の内、JIS B 2710-1「重ね板ばね第1部：用語」及びJIS B 2710-2「重ね板ばね第2部：設計方法」の改正作業が始まった。2018年12月から2019年11月にかけて行われる。

② JASO 規格関係

自動車技術会規格委員会要素部会の活動に参加し、改正・小改正作業及び分科会活動等を進めた。なお、平成30年度にホースクランプ分科会が設置され、F204「自動車部品-ばね式ホースクランプ」、F207「自動車部品-ウォーム式ホースクランプ」、及びF209「自動車部品-ホースクランプ」の調査が行われた。使用者及び製造者ともに、これらの規格を基にした発注・製造がないことから3規格の廃止が決定した。ばね工業会から幹事1名、委員4名が参画した。

③ JSMA 規格関係

今年度は以下に示す3規格の制定・改正原案作成作業を進めた。12月にSD013「ばね用鋼線の硬さ測定方法」及びSD014「ばね用オイルテンパー線の硬さによる脱炭層深さ測定方法」の2規格を制定・改正発行した。またTRD005「ばね用線の大たわみ回転曲げ疲労試験方法」については理事会にて承認された。

(2) ISO 規格関係

① 第14回ベルリン国際会議

日本からは相羽国際幹事以下4名が出席した。9月27日、28日の2日間開催され、1日目はワーキンググループ会議、2日目は本会議が行われた。

ドイツ提案の圧縮コイルばね試験法は、CD投票の際に出た100件のコメントに対するコンビーナの所見に同意するか確認する形で審議され、2回目のCDを行う事を決議した。現在はコンビーナから新しいドラフトが回付されるのを待っている状態である。

次回の第15回国際会議は、11月に名古屋で実施することを決議した。

この活動には、政府制度の国際標準開発事業のツールを活用し、経済産業省、株式会社三菱総合研究所の支援を頂きながら実施した。